

沖縄総合事務局における 平成23年度の事故の状況について

内閣府沖縄総合事務局開発建設部技術管理課
たいら ひろたか
 工事検査官 平良 博孝

1. はじめに

沖縄総合事務局開発建設部（港湾系除く）における、平成23年度の工事および業務に係る事故発生件数は23件であり、工事関係が20件、業務関係が3件となっています（図 1）。

本稿は、平成23年度の事故の発生状況と、近年の事故事例の発生状況、原因および対策を紹介します。

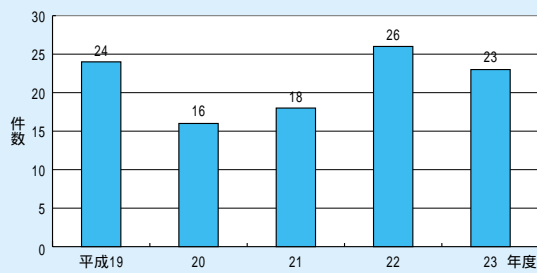


図 1 過去5年間(平成19～23年度)の事故件数

2. 事故の発生状況

(1) 月別事故発生件数

月別事故発生件数は図 2のとおりであり、全般的に発生し、夏季は毎年のように熱中症による労働災害（疾病）が発生しています。

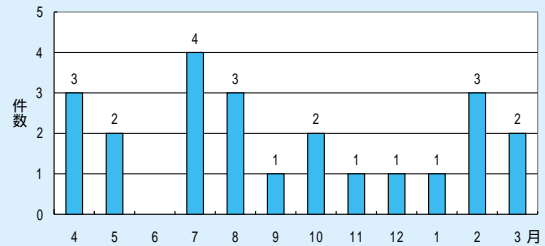


図 2 平成23年度 月別事故発生件数

(2) 工種別事故発生件数

工種別事故発生件数は図 3のとおりであり、道路改築関係の事故が最も多く、事故全体の約8割が道路関係で発生しています。

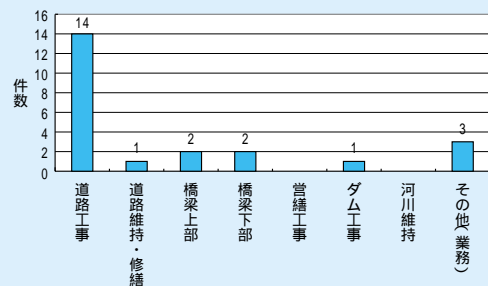


図 3 平成23年度 工種別事故発生件数

(3) 分類別事故発生件数

分類別事故発生件数については、労働災害5件（22%）、公衆災害14件（61%）、もらい事故4件（17%）となっており、公衆災害が最も多い状況にあります。なお、公衆災害は、物損のみで人身

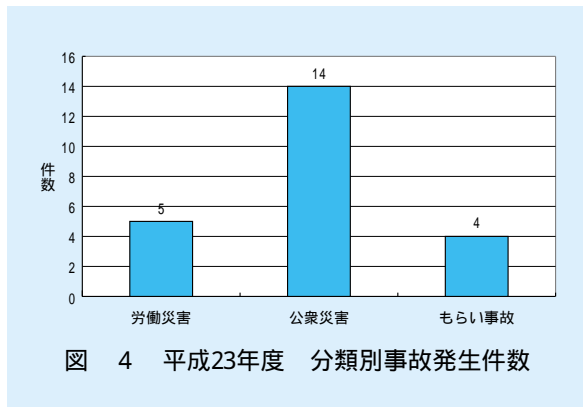


図 4 平成23年度 分類別事故発生件数

の事故はありません（図 4 参照）。

(4) 分類ごとの形態別事故発生件数

① 労働災害

労働災害を事故形態別で見ると、墜落2件、疾病（熱中症）2件、工具取り扱い1件で重機からの飛び降り、熱中症、ハブに噛まれた、スパナとH鋼材との間で指の挟まれ等で負傷が計5名出ています（図 5 参照）。

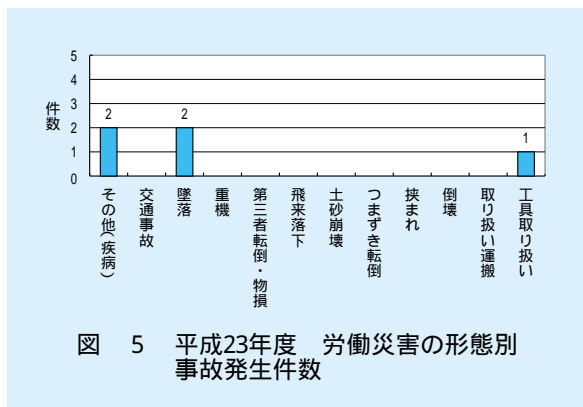


図 5 平成23年度 労働災害の形態別事故発生件数

② 公衆災害

公衆災害を事故形態別で見ると、第三者被害が5件と最も多く、次に埋設物破損（水道管）とその他の3件で、看板、一般車両や照明ケーブル等の破損、切断等です（図 6 参照）。

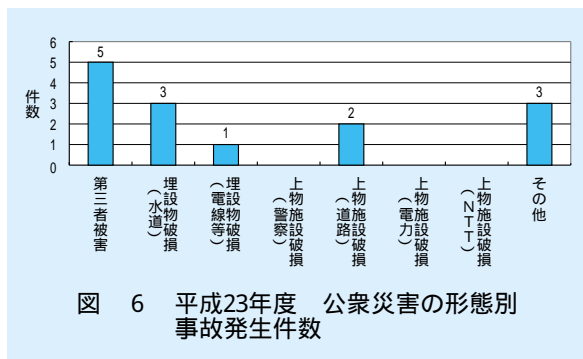


図 6 平成23年度 公衆災害の形態別事故発生件数

(5) 曜日別事故発生件数

曜日別事故発生件数で見ると、週を通して発生しており、発生率は週末の金曜日、土曜日で約半数を占めています（図 7 参照）。

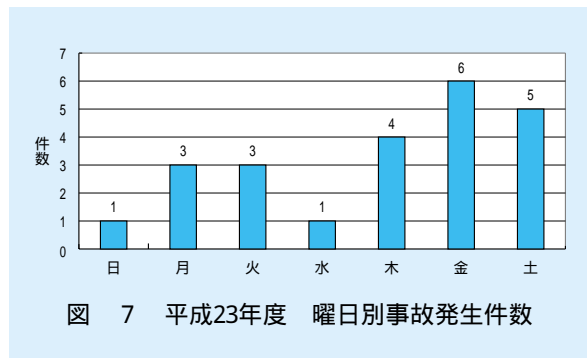


図 7 平成23年度 曜日別事故発生件数

(6) 時間帯別事故発生件数

時間帯別事故発生件数で見ると、昼食前の10～12時台と、昼食後の15時台の中だるみのときに発生率が高い傾向にあります（図 8 参照）。

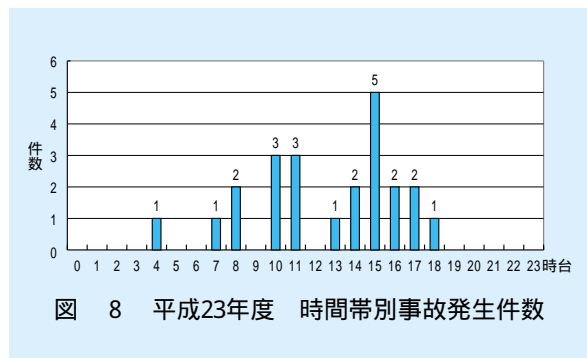


図 8 平成23年度 時間帯別事故発生件数

3. 事故事例

沖縄総合事務局開発建設部（建設系）における工事事故事例集から、代表的な3事例の事故原因と事故発生後の対策を紹介します。

事例集：（<http://www.dc.ogb.go.jp/kyoku/about/gikan/kouji/jikojireishu.pdf>）

【事例1】重機（図 9）

〔発生状況〕

路面切削作業中、切削機のビットに既設ドレンパイプが挟まり、そのパイプを1人で確認および撤去をする際に左手を切削機に挟まれ、巻き込まれ負傷した。

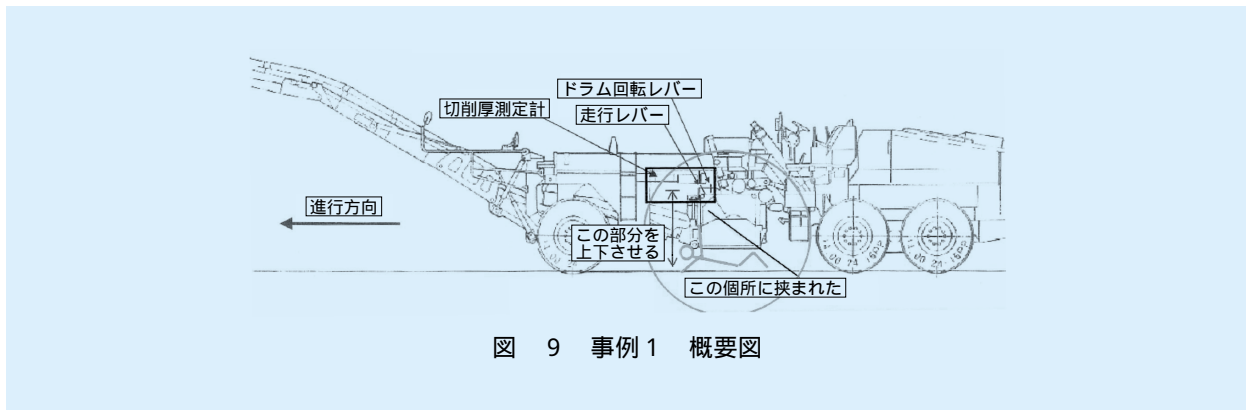


図 9 事例1 概要図

〔事故原因〕

- ① 作業手順においては、ビットおよび回転ドラムの異常時の確認はエンジンを停止させ、2人以上で行うことになっているが、それを守らずドラムの回転を完全に停止させることなく単独で作業を行った。
- ② ドレーンパイプ設置個所におけるパイプ撤去方法に不備があった（切削機のみで撤去を行った）。

〔事故発生後の対策〕

- ① ヒューマンエラーを防ぐため、作業前点検、ミーティングを徹底する。
- ② 危険作業を行わないため、作業手順書の周知徹底を図る。
- ③ 無理な仕事を行わないために、その日の体調管理の徹底を行う。

【事例2】挟まれ（写真 1）

〔発生状況〕

道路情報標示板と支柱アームの組み立て作業を完了し、搬入用架台等の撤去作業を行っていたところ、標示板が転倒し、作業員が左足を地上との間に挟まれ負傷した。



写真 1 事例2

〔事故原因〕

- ① 片方に大部分の荷重が掛かることによる転倒の危険性があったと推測されるのに組立物が安定（自立）しているとの誤った認識から、クレーンの吊りフックを玉掛けロープから外してしまったため、組立物が倒れた。
- ② 支柱を設置し、次に支柱アームを支柱に取り付け、その後標示板を支柱に取り付ける施工計画であったが、支柱アームと標示板を地組した後、支柱に取り付ける作業手順を取っており、施工計画書と異なる手順で行った。

〔事故発生後の対策〕

- ① 組立作業を、クレーン車と建柱車の2台を使用することで支柱取り付けまで吊ることで転倒を防止する。
- ② 作業員全員に作業手順を周知し、作業を行う。
- ③ 吊り荷の下への立ち入り禁止の徹底。
- ④ 吊り作業時には、介錯ロープにて突風対策を行う。

【事例3】墜落・転落（図 10）

〔発生状況〕

型枠支保工組用階段にブラケットを使用し組み

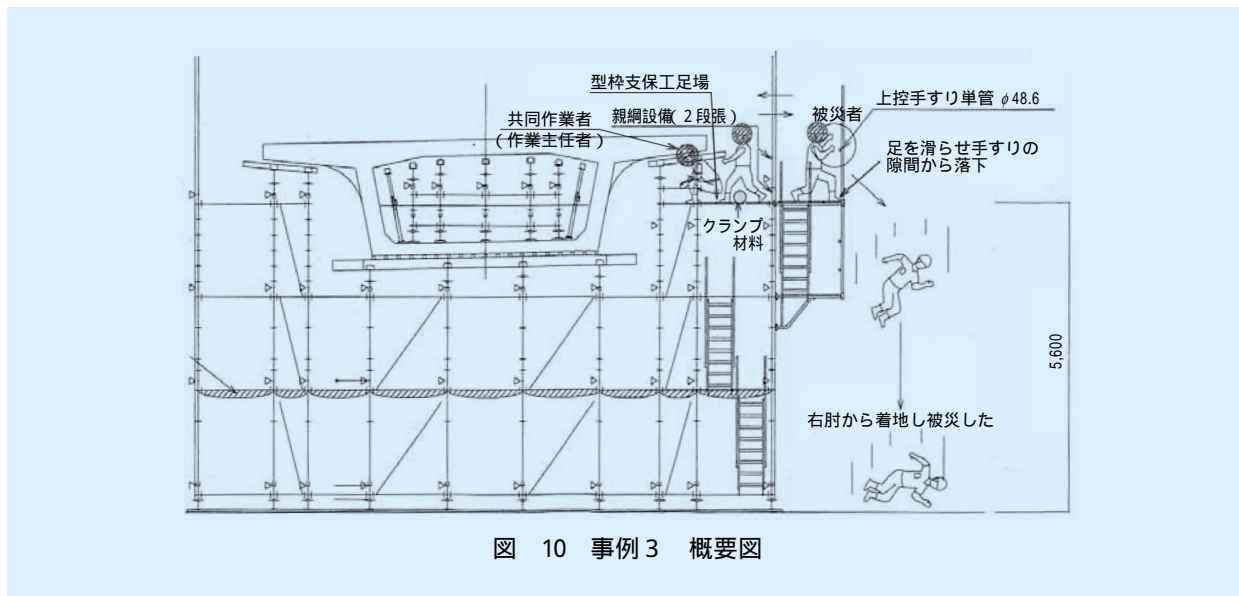


図 10 事例3 概要図

替え作業時、組立材（クランプ）を取りに行くため足場上を移動する際に、親綱に安全帯のフックを掛けずに移動し、上段の足場床上で足を滑らせバランスを崩し、手すりの隙間から約6m下へ転落し、負傷した。

〔事故原因〕

- ① 組立材（クランプ）を取りに行くため足場上を移動する際に、親綱に安全帯のフックを掛けずに移動した。
- ② 当作業の作業指揮者（作業主任）が共同作業していたため、被害者の不適切な行動を確認・注意ができなかった。

〔事故発生後の対策〕

- ① 作業順序に合わせ安全防護設備の盛替えを確実に行うとともに、防護設備の設置時にセーフティブロックを使用し安全作業ができるようにする。
- ② 作業開始前に作業個所の点検を行い、危険要因を洗い出し周知徹底する。
- ③ 作業主任を配置し、作業方法、安全帯の使用および作業状況の監視を行う。

4. まとめ

沖縄総合事務局開発建設部の平成23年度の事故発生件数は、平成22年度から多少減少したものの過去5年間では高い発生率となっています。

事故発生の特徴として、物損公衆災害の発生率が高かったことがあげられますが、これらは特に、作業計画書および作業手順書等の周知徹底また元請けの管理監督の強化を求めています。

また、近年の事故の発生状況をさらに、分析し事故の再発防止に努めていく所存です。

現在、沖縄総合事務局開発建設部では、平成17年度からの工事事故をデータベース化しHPで紹介しています。これは、発生状況、事故原因、事故発生後の対応等をまとめたものです。

本事例集が、現場監督員や施工業者の安全指導等の一助となり、また各種勉強会や講習会等の安全教育の場で活用され、建設工事事故が減少することを期待するものです。

今後も、関係機関等との連携の充実化をさらに図り、事故の減少に取り組んでいきます。